

第521回 大学院セミナー（キャリアアップシリーズ：臨床系）

歯の保存への挑戦 ～歯牙移植から歯周組織再生療法まで～



演者 片山 明彦先生

医療法人社団明佳会理事長
東京歯科大学 臨床准教授

日時：2026年2月19日（木）

18:10～19:10 本館西棟ラウンジ

自家歯牙移植は、欠損歯の保存・回復手段として長年研究されてきた生体移植であり、歯根膜を有する点でインプラント治療と異なります。そのため、生理的な機能回復が可能で、咬合感覚の維持や歯槽骨の保存といった生物学的優位性を有しています。一方で、治癒は歯根膜細胞の生存や移植床の組織反応に強く依存し、歯根吸収や骨性癒着などの合併症、ならびに術者依存性が課題とされてきました。

歯周組織再生療法も歯根膜細胞を基盤とし、セメント質、歯根膜、歯槽骨からなる支持組織の再生を目的とします。GTR法やエナメルマトリックスデリバティブ（EMD）に加え、近年では塩基性線維芽細胞増殖因子（FGF-2）製剤が臨床応用され、注目されています。しかし、欠損形態によってはFGF-2単独では不十分な場合もあり、骨補填材など足場（scaffold）の併用が有効となります。組織再生には細胞、成長因子、足場の三要素が不可欠であり、加えて軟組織の良好な治癒が再生の成否を左右します。

本講演では、歯牙移植および歯周組織再生療法について、研究から臨床応用までを概説し、皆様と議論したいと考えています。

代表著書

1. 「よくわかる歯科小手術の基本 拔牙から歯周外科まで」(デンタルダイヤモンド)
2. 「Flap stabilityとSoft tissue preservationからみた歯周・インプラント治療における再生療法」(クインテッセンス)
3. 「フラップ手術のすすめ 歯周組織再生療法をやってみよう！エムドゲイン、リグロス、GTR法 骨移植をやってみよう」(医歯薬)
4. 「失敗しない歯周組織再生療法 歯肉退縮におけるDecision Making 骨縁下欠損を伴った歯肉退縮に対するstageアプローチ」(医歯薬)
5. 「5-Dコンセンサス 歯の保存にこだわる」(クインテッセンス)

略歴

- 1999年 東京歯科大学卒業
慶應義塾大学医学部歯科口腔外科学入局
- 2004年 東京歯科大学歯周病学講座大学院卒業
- 2005年 東京歯科大学歯周病学講座助教 助教
- 2007年 稲毛デンタルクリニック開業
神田デンタルクリニック開業(現有楽町デンタルオフィス)
慶應義塾大学医学部歯科口腔外科学教室非常勤講師
- 2008年 医療法人社団明佳会理事長 就任
- 2013年 東京歯科大学歯周病学講座非常勤講師
- 2015年 東京歯科大学水道橋病院臨床講師
- 2021年 東京歯科大学 臨床准教授

資格：

日本口腔インプラント学会 専門医
日本歯周病学会 専門医 指導医 評議員
日本臨床歯周病学会 指導医 歯周インプラント認定医
日本口腔インプラント学会 青森インプラント研究会理事
ヨーロッパ審美歯科学会（European Academy of Esthetic Dentistry）認定医
スタディーグループ 5-D Follow-up Study Tokyo 理事
株式会社GC 公認インストラクター

共催：ウェルビーイングプロジェクト